

神奈川県 保険医新聞

発行所 神奈川県保険医協会 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 (TSプラザビルディング2階)
 電話045-313-2111(代表) F A X 045-313-2113 横浜中央郵便局私書箱第319号
 購読料 一部300円(会員の購読料は会費に含まれています) 発行人 園田栄太郎

第70回定時総会

プラス改定で医療の未来を

第32期役員発足

協会は6月15日、横浜ベイシエラトンホテル&タワーズで第70回定時総会を開催。会員51名、役員24名の計75名が出席した(委任状1千963通)。議事では、2025年度活動方針案、保険医が安心して『より良い保険医療』を国民に提供できる『未来』を創る『診療報酬大幅引き上げを求める運動の展開』をはじめ全6議案が承認された。

「2025年度活動方針案」は、二村副理事長が提案。医療機関経営が危機に陥る中、最重要課題に診療報酬の大幅プラス改定を掲げた。更に、健康保険証の復活、高額療養費制度見直しの撤廃、窓口負担ゼロへの取り組み等を含め、より良い保険医療を提供できるよう運動するとした。



田辺理事長

冒頭の挨拶で田辺理事長は、20年にわたる実質マイナス改定、物価高騰や病床の削減、急速な医療DX等による医療機関の経営危機を、50年にも及ぶ減反政策が引き起こした米不足と重ねて危機感を示した。生活習慣病管理料の算定回数制限や外来管理加算の再診料への包括化、機能強化加算の廃止等といった財務省の議論に言及。医療の供給不足が生じ、地域医療を崩壊させないためにも改めて医療費総枠の拡大を訴えた。

「2024年度活動報告」は田辺理事長が提案。2024年12月2日の健康保険証新規発行停止の阻止には、至らなかったが、署名や宣伝行動等への精力的な取り組み、▽院内掲示物や患者向けリーフレットの作成、10月の「医療・健康フェスティバル」にて市民へアピールしたこと等を報告。市民・患者他団体とも協働することで保険医協会の注目度を高め、全国規模の「総力戦」運動を展開できたとした。

質疑では、早瀬一雄先生(横須賀市・歯科が保険証廃止撤回の運動を一層強めてほしいと激励、要望。小出一久先生(藤沢市・歯科)は歯科会員減少の理由、再指導の増加と対策について質問した。執行部は、歯科は医療よりも新規開業が少なく、法人化や経営状況の悪化の影響があると答弁。指導対策は協会事業を継続するとともに、指導を受ける案、採択された。

側も請求に問題がないか確認することが重要とした。「2023年度決算」は財政部長の竹下副理事長が報告。監査報告に立った鶴養監事は、財政運営と財政管理は適正だと報告した。

「2025年度予算案」は、事業収支をマイナスで提案。診療報酬改定費用の計上が要因であり、各積立預金を取り崩して、全体収支はプラスになるとした。

「第32期役員選出」は小泉聡選挙管理委員長が提案。候補者が定数内のためそのまま承認された。田辺理事長は続投、新たに原崇理事は副理事長に、小柳光仁先生(大和市・内科)は理事に、また、田中麻衣子事務局次長は事務局長に選出された。「決議・スローガン採択」は白土一人起草委員長が提案、採択された。



記念講演

生成AIは事務業務から

明確な指示で「嘘」防ぐ

議事に先立ち行われた記念講演では、京都大学医学部附属病院・眼科学教室の

佐渡恵奈氏と、フィッティンククラウド株式会社代表取締役(COOKTAIL共同開発)の岡本和也氏が登壇。「開業医・協会業務等への生成AIの活用について」をテーマに講演した。



佐渡氏



岡本氏

まず、佐渡氏は生成AIの仕組みがわからなくても、事務業務には明日からすぐに使えるとする一方、カルテ作成等はカルテベンダーとの連携が必要とした。ChatGPTなどに代表される大規模言語

モデル(LLM)は、質問を分析してキーワードの次に来る確率が高い言葉を予測すると説明。しかし、言葉の「意味」は理解していないためハルシネーション(AIがつく嘘)が起りやすく、特に数字が苦手だとした。

カルテベンダーによる安全な環境作成なしにChatGPT等の無料サービスでカルテ作成等を行うことは、国外に医療情報を持ち出すことや安全ではないインターネットを介した医療情報のやりとりにあたり、「医療情報システム」の安全管理に関するガイドライン(厚生労働省)に違反すると指摘。臨床分野への活用には、医療情報が外部に流出せず、また生成AIに二次利用されない安全な環境の構築が必要とした。また、AIの嘘に基づき判断した場合、その責任は医師にあると注意喚起した。

さらに、より意図に即した回答を得るには、明確に指示(プロンプトエンジニアリング)することを推奨。また画像・動画・音声を用いた生成AIとして、歯周精密検査等の音声入力や、動画を聞いて説明。その他、ハルシネーションが少ないモデルやOCRに特化したモデル等を用途別に紹介した。

*協会HPにて動画公開中

療情報システムの安全管理に関するガイドライン(厚生労働省)に違反すると指摘。臨床分野への活用には、医療情報が外部に流出せず、また生成AIに二次利用されない安全な環境の構築が必要とした。また、AIの嘘に基づき判断した場合、その責任は医師にあると注意喚起した。

識)、▽保険点数等の情報源を検索する(RAG/検索拡張生成)等を含めた。続いて岡本氏は、臨床分野に活用可能な生成AIを、診療録等の基礎となるデータの中から対応する部分を抽出することで、紹介状等の文書を作成できるとした。京大病院眼科のアンケートでは、90%以上の文書で業務の軽減につながったとの結果を示した。



「人権」の観点から窓口負担を考える 窓口負担「ゼロの会」オンラインイベント



二村副理事長 田辺理事長

6月8日、医療費の窓口負担「ゼロの会」はオンラインイベント「みんなで語ろう窓口負担ゼロ～お金の心配なく医療にかかれる社会へ～」を開催。5回目の開催となる今回は兵庫県保険医協会を主催・主務地とし、神奈川・千葉・大阪歯科協会の共催。神奈川協会からは田辺理事長・二村副理事長が演者として参加した(詳細次号。下記QRコードより視聴可能)。

活動報告 quick reports

杏林往来

私たちが協会会員が、日頃安心して充実した診療ができるのは、いつも会員に寄り添い、常に会員の為に尽力して下さっている協会事務局職員の皆様のおかげであると日々考えており、感謝の気持ちは筆舌に尽くし難い。協会と雇用契約を締結している職員が働きやすい職場環境を整備し、心身の負担がかららない支援体制を整えていくのも私たち会員の責務であろう。昨年三月の第三者委員会からの提言と昨年度の協会方針を受けて、労務関連法令遵守(労務コンプライアンス)委員会が設置され、本年六月からの運用となった。その目的は、職員から通報・相談されるハラスメント・心と身体の健康・個人情報・職場環境改善などの労務関連問題の解決、及び職場における心理的安心・安全性の確保と協会の公正かつ透明な運営の実現を目指すものである。匿名での通報・相談も可能であり、様々な受付方法を設けている。通報・相談を受けた場合は、委員会を通じて相談者が不利益な取り扱いをされないよう精査し、労務関連法令への抵触またはその疑いがあれば理事会等へ報告・対応案の提案・対処依頼をする。▼私たちが会員及び目の前の患者さんの笑顔のためにも優秀な事務局の皆様が、心理的安全性を担保され、のびのびと、益々生き生きと活躍できる職場となるための皆でありたい。